

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100248		
法人名	有限会社 鈴の音		
事業所名	グループホーム城南		
所在地	甲府市右左口町805-6		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな山の麓に立地し、環境面で優れている。ゆったりとした木造平屋建であり、吹き抜け・床暖房となっている。デイサービスと併設しているため、大きなイベントは合同でにぎやかに行っている。本人本位のケアを忘れずに、心の安定に努め心地よい場所をつくり、職員や入居者の人間関係の構築を図り、生きる活力となるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠景に南アルプス・ハケ岳・茅ヶ岳を、眼下には甲府盆地と桃畑を一望できる環境にあり、デイサービスを併設している。室内には木の柱や棧があり、職員と共にテーブルを囲んだ食事もある家庭的な雰囲気を感じさせている。職員の成長を考慮した指導では、個人個人の自主性を大事にし、毎日の目標を明確にし、その結果の評価をする工夫が定着化されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム城南

[セル内の改行は、(Altキー) + (E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者第一に思いやりを持って、日々活動していくことを普段のミーティングで毎回確認し共有している。ミーティングで問題提起をし、どんな時にその人のペースに合わせて行動できなかったかなど反省し改善している。	理念として、思いやりと利用者第一を掲げ、管理者職員が共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会長や民生委員に運営推進会議に参加してもらい地域の情報をいただき、利用者が参加できそうな行事に参加するようにしている。利用者の知人などがボランティアとして歌を歌ってくれたり、利用者と話しながらお茶など飲んでいいる。	夏祭りには、地域の住民の参加もあった。職員は良い関係を作るよう、外出時には、積極的に挨拶するように努めて、地域の方から挨拶を返してもらっている。	地域密着型のサービスの視点から、地域における認知症への理解を広める役割割りを持つことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の悩みを聞き、認知症という症状やその対処方法を一緒に考え、良い方向へ行くよう援助している。中学生の職場体験の場として提供し、お年寄りの接し方など理解を深めてもらえるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、毎月課題を提供し、それについて話し合ったことを運営推進委員の方々や家族に会議録として郵送し、事業所の理解を深めてもらっている。	民生委員・区長・市議・老人クラブ・自治会・家族・地域包括支援センター・市の介護課がメンバーとなっているが、出席率が上がってきている。家族は、県外等の遠距離であったり、移動困難で有ったりするため、参加しにくい現状がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、事業者のあり方について意見をいただいている。開設して初めての内部監査もあり、指導してもらい、直ぐに対処している。利用者情報も毎月送付している。	月1度は、利用者の状況報告に行っている。市から研修会の誘いがあり参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会に参加した結果を、ミーティングで話し合いマニュアルを作成し、理解を深めているが、玄関の施錠はその時々に応じてしている。	スピーチロックに関しては、職員共々注意してはいるが、言ってしまうこともあり、後で職員に注意することもある。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のためのマニュアルを作成し、意味を理解してもらえよう繰り返し話し合い予防に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今は対象の利用者はいないため、理解を深めるまでには至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まった時点で、利用者・家族、または身元引受人となる方を交え、契約内容など心配や不安がないよう、十分話し合いをし、理解を得ている。実際の生活の細部についても話し合い疑問や要望も聞いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームの玄関に筆記用具とポストを用意し、常に利用者・家族からの意見を聴くことができるようにしている。また、面会の際、家族と話したり、月に1回家族への手紙などでも報告し、問題があれば改善策を職員にも周知徹底をしている。	意見箱を用意しているが、意見は少ない。利用者の希望等は、日常的に聞くことができる。家族の意見は、土日の来所が多く、管理者がいない場合、職員は申し送りノートに記録し、共有できるようにしている。	利用者や家族を交えた家族会の開催により、家族の協力をもらえる運営ができることを期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム内のミーティングで全職員が出席し、申し送りノートに議事録を書き、再度確認できるようにしている。	職員の運営に関する改善案は、積極的に取り入れていて、職員の考える力を向上するための仕組みが機能している。毎日日勤の担当がリーダーとなり、一日の流れを決める責任を持ち、実施し、評価をすることが定着化されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面接を実施し、意見を取り入れたり条件の整備を図っている。職員の勤務希望を聞き入れ、無理なく勤務できるよう配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護保険制度、介護の実践や認知症のケアについて図書箱を設置し、誰でも手に取れるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修や地域密着型サービスの研修会・県や市から案内される研修にも参加し、全職員に報告している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時には案内や説明をし、契約となる場合は自宅や病院に面談に行き、生活歴を聴き取り不安がないようにしている。グループホームで穏やかに生活できるようにアセスメントをしっかりとし、職員に報告しスムーズに受け入れてもらえるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	とにかく話を聴き安心していただけるよう話し合いを重ねている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が安心・安全に暮らしていける環境づくりをし、必要に応じて訪問マッサージを導入している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人に役立つことの喜びを感じてもらえるように、声かけをしている。出来ることを妨げない自立支援を心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を近くに感じてもらえるよう可能な限り、家族に協力を依頼している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時自室にて一緒に過ごしたり、入居後も家族と連携をし行きつけだった場所へ連れて行ってもらえるようにするなど、可能な限り、その方にとっての楽しみ生き甲斐を断つことのないよう配慮している。	同窓会に出席し、教え子が来られることがある。クリスマスには、教会から訪問があり楽しみにしている。利用者は携帯電話を持っており、馴染みの人との会話を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の片付けや物づくり、体操や散歩など一緒に時間を共有し、共に支えあう環境づくりをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても遠慮なく相談していただけるよう声かけをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活に近付けていけるようにしている。具体的には本人がちよとした時に出た本音をミーティングで話し合い、本人が本当にしてもらいたいこと、また、したいことを話し合っている。	一人ひとりの思いは、人毎に違うし、日々変わっていくことを理解し、その場にあわせた対応をしている。介護を業務として捉えるのではなく、どんなことがあっても、その人その人に合わせた対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活環境をアセスメントし、その人らしい生活に近づけるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の有する力に合わせ、「食器を拭いてもらう」、「ほうきで掃く」、「テーブルを拭く」、「洗濯ものをたたむ・干す」、「テレビを観る」など、様々な過ごし方をしている。職員は全てを把握し適切な声かけをしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行っている。その意見を更新時には、家族・看護師・また、主治医の意見などを含め計画作成者が集約し作成し、家族に説明、確認印をいただいている。	ケアマネジメントの実践として、カンファレンスで現況を明確にし、利用者の希望を念頭に、計画を見直し、利用者・家族の承認をとり、毎日の実践において評価を得ている。施設と異なる自由度のある対応をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別計画の評価や受診往診結果の反映など変化を取り入れたり、職員間の情報の中で気付いたことなどを話し合い、共有ができるよう申し送りノートに記載し活用をしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望や家族の状況に応じて、通院や外出など必要な支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府市介護保険課・地域包括支援センターなどの推進会議への参加を始め、随時相談し、入居者の暮らしを支えていけるようしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、できるだけ家族の協力を得ているが、不可能な場合は個別に通院援助をしている。インフルエンザも事業所全体で対応している。	従前のかかりつけ医を利用した利用者に関しては、家族の対応を願っている。そうでない利用者には、事業所が対応している。受診時には、1か月の体調表を持参してもらい、主治医に報告している、結果投薬が変わったこともあった。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の看護師や併設している同施設の看護師に随時、入所者の身体状況の把握・管理・指導を行い、適切な判断や受診の必要性の判断を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師と情報を交換し、本人と家族の支援をするように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応・対策、終末期について契約時に家族との話し合いの中で、方針を決めている。	契約時にリスクについて説明し、重度化や終末期対応につき確認している。重度化や終末期があっても看護師の対応が受けられるので安心感がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各入居者の既往歴などを把握し、誤嚥・転倒・意識喪失時に備えて、救急措置を看護師から講習を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、日頃より防災に関心を持ち、併設事業所にも協力してもらえよう体制を整えている。年3回の防災訓練を行っている。甲府消防署にお願いして、水消火器を使用しての訓練に講評をもらった。	消防署が来て訓練を行ったり、地域の防災訓練に参加している。夜間何かあった場合職員は3分以内に来れる体制になっている。	地域の協力を得た、夜間の防災訓練の実施を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に馴染みやすい言葉かけで対応しているが、馴れ合いにならないよう職員同士で意識してもらっている。カンファレンスなどで職員が集まった時に何度も繰り返し言葉遣いについて注意している。	理念に伴う、一人ひとりの思いを大切に、個人のプライバシーに関しても、必要な個人情報(ケア業務上のチェックリスト等)は、外の利用者に気づかれないように工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように考える時間を置き、余裕を持って声かけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床や食事など、決まった時間での行動が不可能な場合は、時間をずらしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望を聞いて美容師に来てもらい、髪をカットしたり朝の着替え時や入浴時の着替えなども選んでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルへ配膳・下膳・食器ふきなど手伝ってもらっている。配膳しながら、好みのものが出ると会話が弾むようである。入居時に好みのものをお聞きするが、皆で食べると嫌いなものでも自然と食べていることが多い。	利用者と職員と一緒に食卓を囲み、話しながら食事を美味しく取っている。野菜中心の5品は、味の変化が有り楽しいものがある。配膳・下膳も役割り分担があり楽しまれている。食事の量、服薬の確認も利用者それぞれについて報告されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせ、刻みなど食べやすいように対応している。食事量のチェックも行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に食後3回の歯磨きと寝る前に義歯を歯洗剤に浸けてもらっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、誘導し失敗がないように声かけをしている。個人の排尿回数や時間帯のチェックをし、その都度誘導している。排便で何日も出ない場合については、看護師と相談しながら、随時摘便あるいは薬の相談をしている。	個人個人の排泄チェック表が作られていて、利用者の自立排泄のパターンを確認し、実践に活かしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼らず、水分補給や運動などを普段から心がけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は、週3回の決まった時間帯での入浴となっているが、入居者の状態や希望に合わせて臨機応変に対応している。	併設のデイサービスでの入浴もあり、ほぼ毎日入浴を楽しまれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の今までの生活習慣で就寝時間は、個々で対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方については、主治医や看護師と相談し、職員へ情報を申し送りなどで伝え、薬の飲み忘れがないように配慮している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に興味があるのか観察しながら、レクリエーションをしたり、外出行事などに参加できるように声かけをしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見ながら散歩に出かけている。散歩のコースも利用者が決め、職員が身体状況を見ながら付いている。	近所の神社や桃畑に散歩に出かけたり、併設デイサービスと一緒に梅・桜・バラの花見に出かけている。行き付けの美容院に家族と一緒に出かけることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を管理している方が、自動販売機でジュースを買ったりしている。買い物に出かけるときは、好きなものを選んでもらうが、支払いをすときは職員がしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や遠くの友達からの電話などかかってきたりしている。また、携帯電話をお持ちの方もいて随時かけている。年賀状や手紙なども頻繁にやり取りしている。返事の書けない人は、職員が代筆している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・玄関は、センサーで電気が付くようになっている。夜間廊下に出てトイレに行く時など暗くないように配慮している。	玄関には、シクラメンが植えられていて、利用者の作られた色紙で作られたお雛様が、居間にたくさん飾られている。庭には、デイサービスと共用で野菜や花が作られる庭があり、ナスやトマトの収穫があった。外出したときの大きな写真も飾られ、利用者が説明をしてくれた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にある程度決まった落ち着いた場所があり、ゆったりテレビを見たり、話をしたりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に馴染みの家具を持ってきてもらったりして、居心地のいい環境づくりをしている。	部屋には、植木・テレビ・ポータブルトイレ・タンス・テーブル等があり、家族が作成した写真が飾られている。各部屋の入り口には、色紙で作った名札が飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には見やすいように名前を表示している。トイレのドアはわかりやすいように、他の9室とは違い色を変えている。			